

事業実施報告

開催日	令和5年1月21日（土）～令和5年1月22日（日）		
事業名	親子ウインターキャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家 雫石スキー場	参加人数	15家族45名
対象	スキーが苦手な6歳～小学校3年生の子どもとスキー初心者の保護者		
関係機関名	インターアルペン雫石スキースクール（事前指導・スキーレッスン）		

状況報告 （事業の内容・事業の成果と課題について記載）

【事業の内容】

1泊2日の日程で、手作りそり作り・そり滑り・インターアルペン雫石スキースクール講師による事前指導・同スクール講師陣による家族ごとのスキーレッスンのプログラムを行った。
 そり作りでは、段ボールやブルーシート、緩衝材、ビニール袋等を使用して、家族ごとにそりを手作りした。複数名で乗ることができる大型のそりや、スノーボード型のものなど、家族ごとに様々な創意工夫が見られ、親子で共通したものづくりを楽しんでいる様子が見られた。
 そり滑りでは、制作した手作りそりを使用し、職員の安全管理のもと、家族ごとに楽しんだ。
 スキースクール講師による事前指導では、体育館に敷いたマットの上で、実際にスキーを着脱したり、スキーを履いて方向転換をしたりした。
 二日目の雫石スキー場では、前日の事前指導で学んだことを生かしながら実際にスキーレッスンを行った。スキースクール講師による家族ごとの指導の中で、子どもへの技術的な指導だけでなく、親へスキー場での子どもとの関わり方を伝えている場面が見られた。

【成果】

- ・事業後のアンケートにおいて、「今後、家族でスキーを行おうと思いますか」の設問に対して、「したい」「ややしたい」を合わせて100%であった。これにより、家族での体験活動を継続して行いたいという意欲を高めることができたといえる。
- ・そり作りでは「子ども達が目を輝かせながら遊んでいる姿を見て、とても嬉しかったです。」などの肯定的な感想が多かった。家族で協力して制作し、作ったそりがよく滑ることを実感しながら楽しむことができた。
- ・スキーについては、「事前に、スキーの着用方法や予備知識を学ぶことができ、2日目の本番の際に、比較的スムーズに滑ることができました。」などの感想があった。初心者にとってのスキーに対するハードルを下げ、家族でまたスキーに行ってみようという意欲の向上につなげていくことができたと思われる。

【課題】

- ・スキーレッスンの目的は、講師がいなくても家族でスキーを楽しめるようにすることである。子どもにつきっきりで技術的なアドバイスをするのではなく、親がスキー初心者の子どものとスキーを楽しむための関わり方をスキー講師から積極的に伝えてもらえるよう、インターアルペン雫石スキースクールと綿密に打ち合わせをする。
- ・他の事業との重なりのため、会場設営や撤去作業など場所設定や人員配置などの困難さがあった。また、除雪などへの対応を考え、事業日程を含め余裕をもった運営を実施できるようにする。

状況写真



手作りそりを制作



手作りそりでそり遊びを楽しむ



ファミリータイム（親）講義



ファミリータイム（子）体ほぐし



スキーの着脱などを事前に体験



家族ごとのスキーレッスン

注1）フォントはMS明朝、12Pで統一すること。

注2）状況写真は4～6枚掲載し、キャプションを付すこと。